

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要について

井原市教育委員会学校教育課

1 実施の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和6年4月18日(木)

(3) 参加状況 市内13小学校6年生248人 5中学校3年生257人

- (4) 調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学)
②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

2 井原市の学力調査の状況 (平均正答率%)

	小学校6年生		中学校3年生	
	国語	算数	国語	数学
井原市	66	61	58	49
岡山県	68	62	59	53
全国	67.7	63.4	58.1	52.5
県比較	▲2.0	▲1.0	▲1.0	▲4.0
全国比較	▲1.7	▲2.4	▲0.1	▲3.5

3 教科・領域別にみた調査結果概要 (全国平均正答率との比較%)

	話す・聞く	書く	読む	言葉※		数と計算 数と式	図形	変化と関係 関数	データの活用
	小国	0.3	0.6	▲3.6		▲2.9	小算	▲2.6	▲1.7
中国	2.4	0.3	▲1.2	▲0.9	中数	▲6.9	▲6.4	▲2.6	0.3

※「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

4 質問紙調査結果（肯定率％）

肯定的回答率		①授業 理解 国語	②授業 理解 算・数	③主体 的な学 び	④対話 的で深 い学び	⑤自己 調整力	⑥学習 1h以 上	⑦夢・ 目標	⑧自己 肯定	⑨ICT 使用
小 6	井原市	82.2	81.0	82.2	86.8	83.3	54.7	54.7	83.7	20.9
	岡山県	86.1	81.3	80.8	86.6	80.4	59.2	60.4	85.2	26.7
	全国	86.3	82.1	81.9	86.3	80.8	54.6	60.6	84.1	25.3
	県との差	▲3.9	▲0.3	1.4	0.2	2.9	▲4.5	▲5.7	▲1.5	▲5.8
	全国との差	▲4.1	▲1.1	0.3	0.5	2.5	0.1	▲5.9	▲0.4	▲4.4
中 3	井原市	76.6	80.1	80.9	93.1	80.1	62.5	33.3	84.3	33.3
	岡山県	83.0	75.8	80.0	86.6	77.6	58.5	37.5	85.1	32.7
	全国	82.7	75.7	80.3	86.1	77.9	64.3	36.1	83.3	31.0
	県との差	▲6.4	4.3	0.9	6.5	2.5	4.0	▲4.2	▲0.8	0.6
	全国との差	▲6.1	4.4	0.6	7.0	2.2	▲1.8	▲2.8	1.0	2.3

※学習状況調査の分析については、県の方針に則り、以下の県重点9項目について行う。

- ①「国語の授業の内容はよく分かる」
- ②「算数・数学の授業の内容はよく分かる」
- ③「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」
- ④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。」
- ⑤「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていたと思う。」
- ⑥「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していましたか。（学習1時間以上）」
- ⑦「将来の夢や目標を持っている。」（「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）
- ⑧「自分には、よい所があると思う。」
- ⑨「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」（「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合）

5 考 察

- 小中学校ともに「主体的な学び」「対話的で深い学び」が全国値を上回っている。
各校で児童生徒が課題の解決に向けて自分で考えたり、友達と話し合う活動を通じて自分の考えを広げたりする授業づくりが進められていることがうかがえる。
- 小中学校ともに「自己調整力」は全国値を上回っている。児童生徒が学習内容を振り返り次の学習につなげることができていることがうかがえる。
- 中学校の「ICT 使用」は全国値を上回っている。授業の中で ICT を使用する場

面が適切に設定されていることがうかがえる。

△「授業理解小中国・小算」は全国値を下回っている。児童生徒が主体的に学ぶ「子どもに委ねる授業」を実践するにあたり、以前より教員が丁寧に教えすぎていることも要因として考えられる。基礎的基本的な問題の正答率が低いことから、基礎基本の定着を念頭に置いた組織的な取組が必要である。

△小学校の「学習1h以上」は全国値と同等であるが、減少傾向にある。また、中学校の数値は全国値を下回っている。児童生徒が主体的に家庭学習に取り組むための工夫が必要である。

△小中学校ともに「夢・目標」が全国値を下回っている。キャリア教育の実施など様々な生き方や職業について学ぶ活動を一層充実させていく必要がある。

6 今後の対応

- (1) 基礎基本の確実な定着を目指し児童生徒が「わかる・できる」と感じられるよう、授業改善に取り組む。また、校内で組織的に授業改善の取組が推進される風土の醸成に努める。
- (2) 調査結果の誤答分析を行い、授業で扱う学習内容について検討を行う。また、基礎基本の定着やつまずきの解消を図るための取組を組織的に行う。
- (3) 児童生徒が「やってみたい」「こうなりたい」と感じられるよう、キャリア教育を実施する。また、児童生徒が地域の方などたくさんの方々と触れ、多様な経験をする機会をより一層充実させる。
- (4) 授業とつながる宿題（予習・復習）を設定し、児童生徒が取組む意義を感じ主体的に取り組むことができるよう工夫する。1人1台端末の授業における利用を進め、家庭学習においても利用場面を一層適切に設定する。
- (5) 井原市学力向上対策研修会を実施し各校の取組の共有を図るとともに、他校の好事例を所属校で実践する。